

正標数の層の特性サイクルと分岐理論

谷田川友里

正標数の代数多様体上の層の特性サイクルは、複素代数多様体上の D 加群の理論の類似として Beilinson-斎藤により構成が与えられたものである。複素代数多様体上の D 加群の不確定特異点と正標数の代数多様体上の ℓ 進層の暴分岐との間に観察されている類似により、正標数の代数多様体上の層の特性サイクルは層の分岐と深い関係を持つことが予想される。その一つとして特性サイクルは層の分岐の不変量を用いて計算できると期待されているが、特性サイクルはその構成から計算が容易ではなく、層の分岐の不変量で表すことも簡単ではない。講演では、これまでには知られていない余次元 2 での特性サイクルの計算について、層の階数が 1 の場合の分岐理論を使ったアプローチとそこから得られる結果について紹介する。